

唾液腺悪性腫瘍のゲノム・エピゲノム解析による病態解明

(診療情報および診療時に採取・保管された検体を用いた研究に関するお知らせ)

【平成 28 年より】

研究課題名:唾液腺悪性腫瘍のゲノム・エピゲノム解析による病態解明

研究の目的、方法 (個人情報利用の目的):

唾液腺悪性腫瘍には、耳下腺がん、顎下腺がん、舌下腺がん、口腔内の小唾液腺がんが含まれます。これらの唾液腺悪性腫瘍は、発生頻度が低いため、有効と評価されている薬剤は未だに存在しません。有効な診断方法及び分子標的治療法を開発するためには、実際の唾液腺悪性腫瘍検体における遺伝子異常を明らかにし、発がん原因となる変異を同定することが重要です。

本研究では、共同研究機関において採取される臨床試料を対象として、東京大学細胞情報学分野およびゲノム医学講座において、網羅的にゲノム解析・エピゲノム解析・発現解析を行い、唾液腺悪性腫瘍における具体的な発がん機構を解明することを目指します。なお、検査や治療の際に採取された検体やデータを用いるため、この研究を行うことで患者さんに日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

研究対象:

研究対象は以下の施設において、唾液腺腫瘍のため治療を行い、病理検査にて、耳下腺がん、顎下腺がん、舌下腺がん、その他の小唾液腺がん（口腔がん、硬口蓋がん、口腔底がんなど）と診断された患者さんです。

国際医療福祉大学三田病院頭頸部腫瘍センター

(※共同研究医療機関は各施設の倫理委員会に承認され次第、適時追加します。)

使用する診療情報: 上記施設で治療を受けられた患者さんのカルテ記載情報

使用する検体: 上記施設において施行された生検、手術により採取・保管された検体

個人情報に関する配慮:

本研究では、匿名化（任意の識別番号を付与）された臨床情報データを集積します。お名前や住所など個人が特定される情報の集積はいたしません。また、個人が特定されるような情報は一切公表しません。個人情報の安全保護においても厳重に管理され実施されます。また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

利益相反:

本研究では研究代表者、研究事務局、免疫組織化学染色研究者、共同研究者に、開示の必要のある利益相反はありません。また、本研究が公正かつ円滑に遂行されるよう、適切に利益相反の管理を行います。

医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、将

来研究成果は唾液腺悪性腫瘍（耳下腺がん、顎下腺がん、舌下腺がん、口腔小唾液腺がん等）の発症機序の解明及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

☆なお、以上の研究の化学的妥当性と倫理性は、当院の倫理委員会において審査され、承認されています。

具体的な研究内容を知りたい場合には、下記のお問い合わせ窓口までご連絡ください。
今回の研究対象に該当する可能性のある患者さんあるいはご遺族のかたで、ご自身やご家族の臨床情報を本研究に使わないでほしいというご希望があれば、拒否することができます。その場合は、以下の連絡先までご相談ください。

お問い合わせ

国際医療福祉大学三田病院 頭頸部腫瘍センター 多田雄一郎

住所 〒108-8239 東京都港区三田 1-4-3

TEL 03-3451-8121／FAX 03-3454-0067（病院代表）